茨城県の主要大学学長が語る

筑波大学

永田 恭介学長

教育体制を整備

個別学力検査、アドミッションセンター入試、国際科学オリンピック特別入試、推薦入試など13種類の入試を実施している。また、「丁寧な入試」の例として挙げられる面接も個別学力検査（後期）などで取り入れており、TOEFLなどを課した入試も実施している。だが、変動する現代社会に不断に対応しつつ、国際性豊かにして、多様性と柔軟性とを持った人材を輩出するという建学の理念に鑑みて、入学者選抜方法検討委員会を立ち上げた。

この委員会では、受験生の英語4技能を問う検定試験の導入、国際バカロレアプログラム修了者（受験者）の受け入れなどのグローバル入試（仮称）の実施を検討している。また従来の推薦入試とは異なる基準による推薦入試、入試とリンクした高大連携プログラムなども構想している。

現在、筑波大学では「先導的研究者体験プログラム」などの学生の探求心や研究マインドを刺激する研究大学にふさわしい教育プログラムが実施され、多大な成果を上げている。入試改革やこのような取り組みに加え、語学教育の強化、学位プログラム化などの教育体制を整えることによって国際的に通用する教育システムを構築していく予定である。

茨城大学

池田 幸雄学長

国際的センス習得を

大学入学者選抜の一環として、「達成度テスト（発展レベル）」を5―6年後に導入するという。この場合、知識編重の一発勝負から人物本位の選抜へ転換することを目指している。その趣旨は理解できるが、達成度テストの中身と大学教育との整合性が現状では不明だ。現在、日本の多くの大学は教育改革を積極的に推進しており、近い将来、大学教育が大きく変わると思われる。その変化に適応した入試制度の構想が重要だ。

学生の就職活動の解禁時期の変更については、国際的には学部4年生の後半から就職活動を始めるのが一般的。だが、従来の日本では学生の就職活動は早期化や長期化が著しく、結果として大学教育をおろそかにする傾向があった。学部3年生の3月から就職活動が解禁になれば、早期化は緩和するので一歩前進といえる。さらに国際標準に近づくことを期待している。

グローバル人材の育成については、最近の日本は急速に国際化しており、必然的に「教養豊かなグローバル人材」の育成が重要になっている。

茨城大学は教養教育や英語教育を充実し、学生が短期・長期の外国訪問ができる「国際研修プログラム」も用意している。学生は異文化の理解を通じて国際的センスを是非習得してほしい。

常磐大学

森　征一学長

異能が集まる〝るつぼ〟に

達成度テストの導入を軸とした大学入試改革については制度設計が不透明なため、現段階では答えにくいが、提言で若者の能力を最大限に引き出す高校教育・大学入試の必要性を強調している点は、常磐大学の教育方針と合致しているので賛同できる。本テストが学力の指標として使用可能となれば、大学独自の入試を面接、論文などによる人物評価試験へ転換でき、入試制度は変化すると思う。

また、企業による新卒採用時期を遅らす指針については、順守した場合、学生も企業も十分な熟慮期間のないままの選考となり、懸念される。指針違反への罰則規定がないので、中小企業は乗り遅れを恐れて採用活動の早期化が常態化することも予測される。本学では近隣地域への就職が主なので、地域企業の採用動向にアンテナを張り、指針順守の精神で、従前スケジュールの適宜調整を行いながら就職指導を行っていきたい。

グローバル人材の育成については大学の多様化が前提となる。本学は世界に開かれた大学を目指しているが、それはキャンパスを異能が集まる人種のるつぼに変え、交流を通してグローバル人材を育成したいと考えてのことである。国際学部英米語学科を中心に、国内に定住する日系ブラジル人を受け入れる「内なる国際化」を促進している。

茨城キリスト教大学

小松 美穂子学長

教育の質の確保を

2020年以降の18歳人口の激減期に向けて、大学の体制作りが大命題であることは周知のことである。茨城キリスト教大学は体制作りの一環として、12年教授会で「本学の指針に基づく中期施策の骨子」を示し、本学の現在と今後の目標を説明した。その上で「第13期中期経営計画（12年度―15年度）」に大学重点課題8項目と行動目標を明示した。この課題と目標達成に向けて、すべての学部・大学院・センター・部が4年間の具体的計画を立てスタートしている。

これら課題と目標の中核は「教育の質保証体制確立」への真摯（しん）な行動と努力にある。具体的には社会変革に対応しつつ本学の教育理念を基盤とした教育モデルを、将来に向けてどう発展させるのかである。課題への具体的計画の実行状況はPDCAサイクルで表現され、公表している。その活動主体は大学自己点検・評価運営委員会にある。

ここ2年間における成果は教養教育の充実と教育・研究支援体制の構築だ。前者は15年に新カリキュラムが実施される予定で、後者は教育研究センターが設置され、本格的活動に入りつつある。激動の時代への布石になれば幸いである。

大学改革・グローバル化　こう挑む

茨城県特集

筑波学院大学

大島 慎子学長

グローバルな考え方を

筑波学院大学では学生個人の意欲と基礎的・基本的能力を尊重しており、高校における「コア」の達成度を評価することは本学の姿勢に通じる。入学後は英語、数学、ITスキルは能力に応じてクラス分けをして実力にあう学びの機会を与えている。資格取得には、学習活動との関連で積極的に評価して特別カリキュラムを用意し、より高度なレベルを目指している。大学入学は幅広い層が本学で勉学できるよう、門戸を広げて自主的な学習を尊重している。

3年生3月解禁の経団連指針は、勉学の時間が増えると積極的にとらえ、3年次に短期留学やインターンシップ（就業体験）の機会を増やして社会性を身に着ける指導をしていく。

「グローバル人材」育成の一環として、異文化理解のツールとして英語を重視している。英語が苦手な学生も日常会話程度はできるようにし、英語が得意な学生は海外で就職できる力をつけるよう教育していく。私自身は外国企業の経験が長いが、グローバル人材は、外国語に堪能なことだけではない。自国や地域の文化を理解し、異文化を尊重し、異なる価値観を受け入れる人間性を養うことが必要だと考えている。全ての学生にグローバルな考え方をもたせたい。

筑波技術大学

村上 芳則学長

多様な需要に対応

聴覚・視覚に障害のある学生のためにわが国唯一の大学として教育機能の充実を図ってきたが、2014年度には世界初の大学院として技術科学研究科に「情報アクセシビリティ専攻」を開設する。聴覚・視覚の障害向けの二つの障害者支援コースに加え、手話教育の指導者の育成と手話を言語学として捉え、研究・教育する手話教育コースを設置する。障害のない学生にも門戸を開き、障害補償や情報保障の専門家やコーディネーターを幅広く育成していく。

本学では13年度から学生の自学修時間の増加を目的にアカデミック・アドバイザー教員の配置や就学ポートフォリオの作成など、勉学環境の整備を始めた。また、開学以来、本学の教育・研究活動の成果や経験を幅広く提供し、情報保障など障害者の教育環境の改善支援を行っている。特に近年の障害者の大学進学の増加と障害者差別解消法の成立に伴い重要性を増す中、他の高等教育機関との連携を一層深めていく。新卒採用の活動期間の遅れについては前倒しの状況はないため、影響は出ないと考えている。

今後も編入学や学び直しの受け入れ推進、理療科教員養成課程の設置のほか、留学生や短期留学の受け入れ推進などでグローバル化を進め、多様な教育需要に対応できる大学として機能強化に努めたい。

流通経済大学

小池田 冨男学長

創造力の豊かな人材を

流通経済大学では、これまで「入り口」を重視し、教育学習支援センターの設置などによって、入学してきた学生の基礎学力の育成を支援してきたが、最近は「出口」を重視している。本来、基礎学力の向上は達成度評価などを取り入れる大学入試制度の改革によって行われるべきものと考えている。グローバル時代の21世紀型人材に求められるのは、アントレプレナーシップ（起業家精神）だ。規格化された人材を育成するのではなく、多様な個性と才能を発揮して不確実な社会の中で新しい日本を導く、創造力豊かな人材を育成していきたい。

本学は1965年に総合物流企業である日本通運によって設立され、開学当初からロジスティクスやマネジメントなど、実学教育に特化し、教養教育の重要性も打ち出しながら、少人数教育に取り組んでいる。専門的職業人の育成を理念に社会と企業で活躍する人材を育てている。また、企業による新卒採用の開始時期の遅れによって、今まで以上にインターンシップ（就業体験）が重要視されると考え、14年度から事前指導などを含む科目を新設する予定だ。

50周年を迎えるに当たり、15年を足がかりに次の50年に向けた大学内の再編を2020年にも行いたい。現在、新校舎、新学科、新学部の設置などの検討を始めている。

茨城県立医療大学

工藤 典雄学長

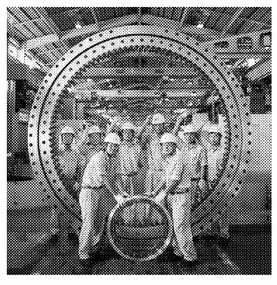
地域医療の担い手に

茨城県立医療大学では開学以来、豊かな人間性あふれる地域医療のリーダーを育成するために、学科試験偏重ではなく、小論文や面接を重視して医療職に適した人材を選抜している。今般の大学入試改革は私たちが行ってきた人間性重視の選抜方針に世の流れがついてきたといえる。

本学では3年次後期から4年次前期の時期に臨床・隣地実習を課しており、本格的な就職活動は4年次の夏休みからとなる。そのため、12年度にキャリア支援センターを設置し、入学後の早い段階から自身のキャリアを考える機会を持つように配慮している。これにより、病院などで行う実習は単に技術の習得にとどまらず、目的意識を持った学びの場となっており、また自らのキャリア実現の場ととらえるようになってきた。

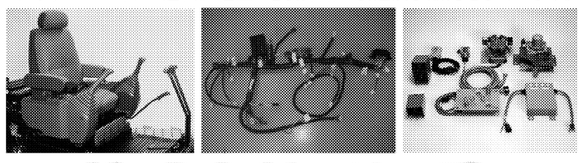
TPPにより医療の自由化が進展した場合に備え、「グローバル人材育成」は急務だが、まずは高度な専門知識をしっかり理解し、身近な地域医療に触れ、相手の気持ちに寄り添える医療人になってほしい。土台をしっかりと構築した上で活動の場を拡大し、世界へと飛躍してほしい。

学生の自発的な学びを実現するには環境整備が必要で、2年後の開学20周年に向け、ラーニングスクエアなど学生の学習環境を整備し、推進させていきたい。

旋回ベアリング
お客様のあらゆるニーズにお応えする
鍛造から組立までの一貫生産企業です。
・建設機械用
・船舶用
・風力発電用
・産業機械用等

Antex 株式会社アンテックス
〒318-0004 茨城県高萩市上手綱3333-24
☎ 0293-23-7511
FAX 0293-23-7515
http://www.antex.co.jp/

表面処理・めっき業、金属製品製造業
主に電気・電子機器部品のめっき加工
① 微小・精密部品のめっき加工 ② 各種めっき加工技術の開発 ③ 品質を重要視 ④ 納期の厳守
茨城プレイティング工業株式会社
〒319-1541 茨城県北茨城市磯原町磯原1611－5
TEL 0293-42-1820　FAX 0293-43-4100
http://www.i-plating.co.jp　E-mail ohsawa@i-plating.co.jp

TSURUTA ELECTRIC
鶴田電機株式会社
茨城県古河市下大野 1793-1
TEL 0280-92-5225
http://www.tsuruta-electric.co.jp
tsuruta@tsuruta-electric.co.jp

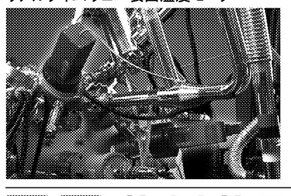
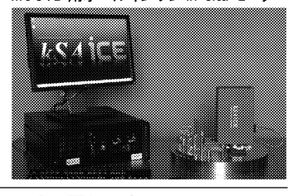
Improve-try our best on best
私たちの"最高"は、いつも成長しつづけています。
弊社は多種多様なお客様ニーズに応え、建設機械・産業機械部品
ワイヤーハーネス・運転席組立・電装部品の製造及び販売をしています。

株式会社 リーデン Leading CO.,LTD.
土浦事業所　〒300-0015　茨城県土浦市北神立町7-13　029-832-1101㈹
本　　社　〒110-0015　東京都台東区東上野3-21-9　03-5812-1720㈹
URL　http://www.leaden.co.jp

日東電気グループ　NITTOCORP
ダイカスト(AL)鋳造品 自動車用部品の機械加工・組立・製造 プラスチック成形品
各種金型 精密切削加工品 電子機器関連部品の製造
タービンブレードノズル FRP成形品の製造 小型燃料ポンプの製造

日東電気(株)(ISO14001:2004 ISO9001:2008) 日東自動車機器(株)(ISO9001:2008)
(株)日東製作所・(株)日東商行・日東メンテナンス(株)
U.S.NITTO(INTERCORP.アメリカ)・NITTO JOKASO VIETNAM(ベトナム)
(本社)〒311-3116 茨城県東茨城郡茨城町長岡3268
TEL .029-292-1221 FAX.029-292-7324 http://www.nittocorp.co.jp/

コロナマルチグレーティング
マイクロプレートリーダ
SH-9000Lab　3年保証
■グレーティング
スペクトル高速スキャン
■モジュール式
蛍光/時間分解蛍光/発光/吸光
から選択、購入後の追加可
■プロトコル組合わせ機能

コロナ電気株式会社　http://www.corona-el.co.jp/
〒312-0052　茨城県ひたちなか市東石川3517　電話 029-273-6114

太陽光発電、LED半導体成膜中の検査システム
表面温度・反り・応力・成長率・膜厚の in-situ 測定（デモ施設もございます）
MBE 装置、スパッタ装置、MOCVD 装置に対応します。
kSA BandiT
リアルタイムウェハ表面温度モニタ

kSA ICE
MOCVD 用オールインワン in-situ モニタ

R-DEC Co.,Ltd.
株式会社 アールデック
〒305-0051茨城県つくば市二の宮 1丁目16番10号
電話029-858-0211　FAX029-855-9877　http://www.rdec.co.jp